

魚沼市 まちがみ 町上 遺 跡

現地説明会資料

平成 23 年 7 月 30 日 (土)

国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所
新潟県教育委員会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

1 はじめに

町上遺跡は、魚野川に注ぐ水無川^{みずなしがわ}によって形成された水無川扇状地（通称／八色原）にある縄文時代の集落です。この水田地帯に国道 17 号浦佐バイパスの建設が計画されました。

この付近に縄文時代の遺跡があることは既に知られていましたが、遺跡の広がりや詳細な時期などが不明であったことから、新潟県教育委員会は平成 16 年に試掘調査を実施しました。その結果、縄文時代中頃の集落があることを確認しました。そして道路工事にかかる 4,300 m²の発掘調査を計画し、本年 5 月 10 日から調査に入りました。

2 遺跡の位置と開発

遺跡は魚野川右岸の魚沼市大浦地内（北緯 37° 11′ 05″ / 東経 138° 56′ 53″）にあります。中ノ岳から発した水無川は、南魚沼市黒土付近から扇状地を造ります(右図)。その規模は南北約 5.6km、東西約 3.5km、面積約 14.6 km²。ほぼ中央（扇央）部に関越自動車道大和パーキングエリアがあり、町上遺跡は扇状地北端に近い位置にあります。

開 発（開拓建設事業概要図から抜粋）

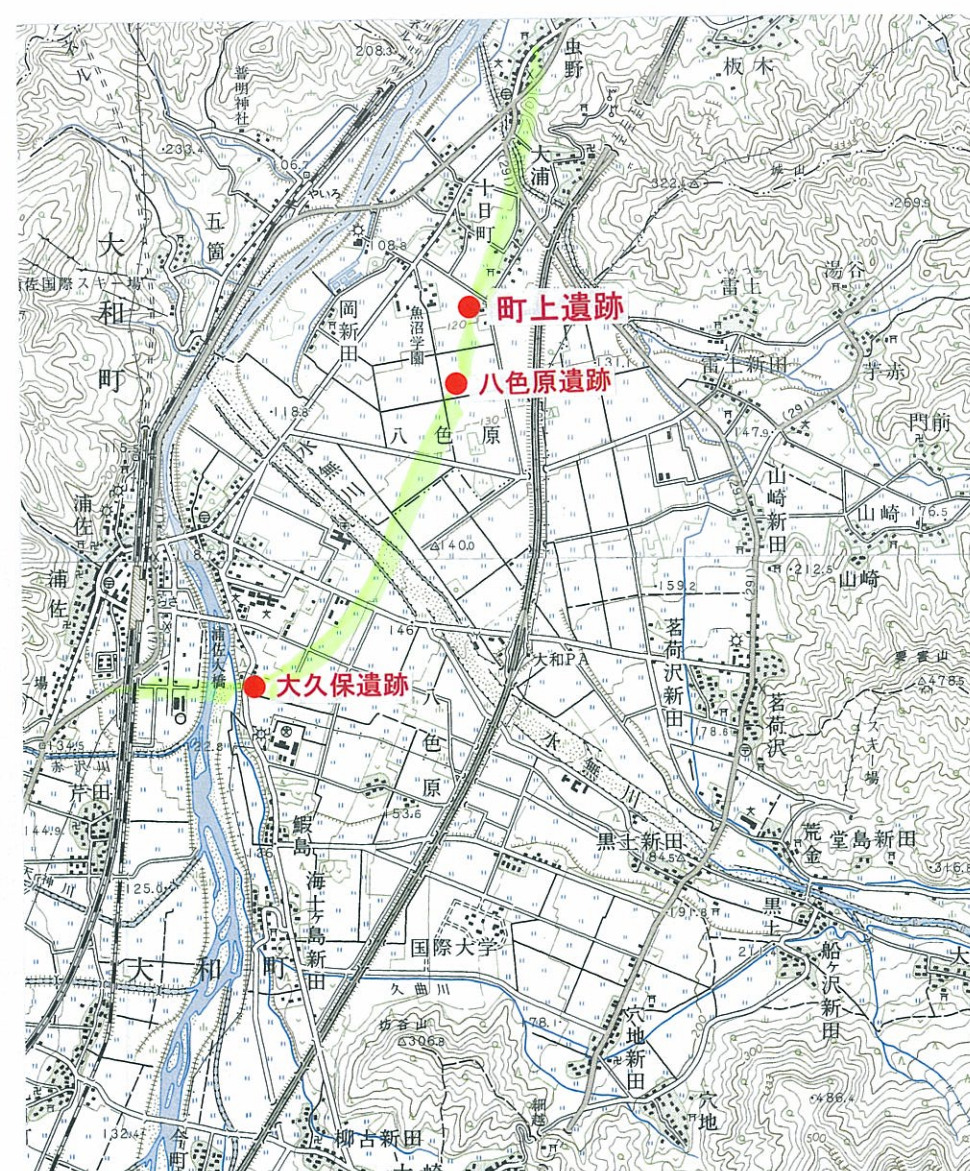
昭和 40 年から旧小出町・大和町・六日町の 2,799ha を対象とした国営魚野川東部開拓建設事業が始まりました。土地の内訳は未墾地 729ha、畑 467ha、水田 1,544ha、道水路敷 59ha です。これにより未墾地から水田 364ha、畑 290ha が生まれました。このうち遺跡がある八色原地区は、杉や雑木林が多くを占め地には石が多く、しかも水の便に恵まれず農業には不向きな土地と言われてきましたが、この開拓により現在の素晴らしい耕地に生まれ変わりました。

3 遺跡の状況

昭和 40 年代の開拓事業により、ある程度遺跡は壊されていると考えていましたが、調査を進めると予想以上に土地が大きく改変されていました。遺跡の残りを見るために改めて試掘溝を 5 本設け遺構や遺物の分布範囲を捜しました。その結果、調査対象を 2,000 m²に修正し、そのうち約 1,000 m²には竪穴住居を含む縄文時代の集落を構成する遺構が残っていました。



南壁：黄色い地山面まで削られている



縮尺 1/50,000

4 遺 構

円形の竪穴住居を 5 基検出しました。竪穴は縄文時代の生活面が土ごと削られ、円形の柱穴配列のみのものもあります。しかし、石で組んだ炉（複式炉）も検出できました。住居は炉の形から縄文時代中期末のものと考えられます。そのほか底面に土器を置いたフラスコ状土坑と呼ばれる貯蔵穴や柱穴が見つっています（写真右下）。土器を天地逆に据えた埋甕もあり、中期末の大木 10 式と呼ばれる東北地方南部と共通する文様が見られます。



竪穴住居
地山面まで削られているが柱は円形に巡る



フラスコ状土坑に置かれた土器
中央は縦2つに割られた土器が外面を上になっている

浦佐バイパス法線上の遺跡

八色原遺跡

町上遺跡の南約 500mに縄文時代中期の遺跡があります。地表下約 1.4mの黒色土から十数点の土器が出土しました。

大久保遺跡

浦佐駅の対岸、魚野川の河岸段丘上に古墳時代後期の古墳群があります。平成 11 年の調査では、墳丘は削られていましたが、円墳 5 基を発見しました。古墳を造った集団は八色原開発の先駆けとなるものと思われます。

